

# ヒアシンスハウスの 1/10 の軸組模型の制作

八代研究室  
00512058 莉和 俊介

## 1. はじめに

「立原道造のヒアシンスハウス」を卒業研究の題材として、ヒアシンスハウスの 1/10 の軸組模型を制作した。またこの模型は大学の授業で使用できるように、組立て式の模型とし住宅の施工過程を実感できるように継手・仕口の構造を表現した。

## 2. ヒアシンスハウスについて

立原道造(1914~1939)は詩人・建築家であり、その生涯はわずか 24 歳と 8 ヶ月で幕を閉じた。彼は 1937 年(23 才)の冬~春にかけて「ヒアシンスハウス」を構想するが実現には至らなかった(図 1)。

翌年 1939 年の 3 月 29 日、肺結核により永眠した。ヒアシンスハウスは 2003 年別所沼公園が、さいたま市の政令指定都市移行に伴い、埼玉県からさいたま市に移管された。これを機に、別所沼周辺の芸術家たちの交友の証として、立原がかつて夢みた《ヒアシンスハウス》は、「詩人の夢の継承事業」として建設の機運が高まり、多くの市民たちや企業、行政の協調のもと、ここに実現することとなった。そこで発足したのが「ヒアシンスハウスをつくる会」である。

文化財保存計画協会研究員の津村泰範氏が実施設計を担当し生川工務店の施工によりヒアシンスハウスが実現された(図 2)。

2004.03.27 起工  
2004.05.23 上棟  
2004.11.06 竣工



図 1 立原氏による  
外観スケッチ



図 2 現状外観

ヒアシンスハウスは、図 3 に示すように、建坪 4.5 坪ながら共有スペースとプライベートが分かれている。共有スペースは狭い印象を受けるが 4 人入っても苦にはならなかった。

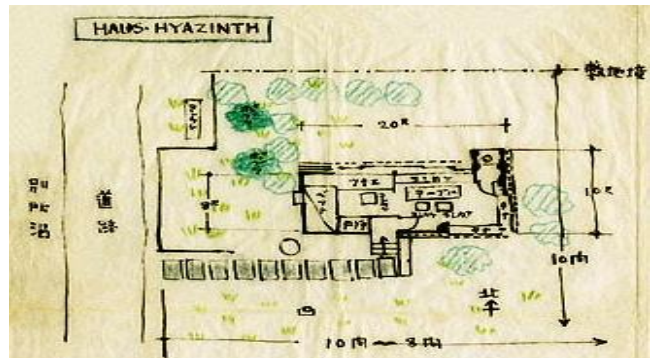
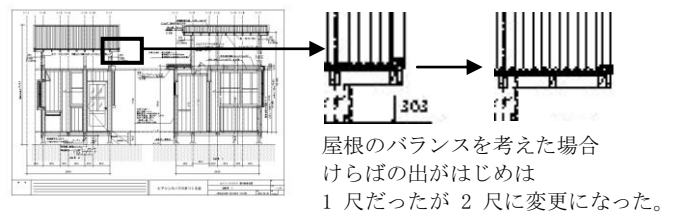


図 3 立原氏による平面スケッチ 敷地 10 間×10 間  
建坪 4.5 坪

## 3. 図面の整理

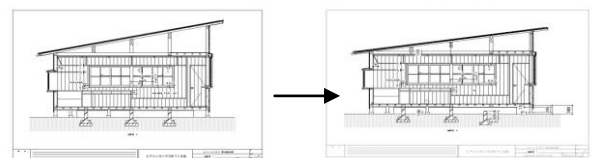
津村泰範氏から入手したデータと実際の建物には変更箇所があったので、実際に施工に携わった生川工務店の生川朋氏へのヒアリングと現地調査によって以下の 2 箇所について、図面修正を行った。

### 3.1 けらばの出 切妻屋根の妻側の縁端のこと。



屋根のバランスを考えた場合  
けらばの出がはじめは  
1 尺だったが 2 尺に変更になった。

### 3.2 屋根勾配



はじめは 2 寸勾配だったが、試行錯誤した結果、1.5 寸勾配に決定した、1930 年代片流れ屋根はとても珍しい建築だった。

上の図は 2 寸勾配から 1.5 に修正した図面。

生川朋氏は「屋根勾配が一番苦労した」と話していた。

図 4 図面の修正

#### 4. 模型の継手・仕口について

軸組模型は4つ継手・仕口を用いて制作した(図5・6・7・8)。



図5 平柄

木口のひとつである。一方には板状の突起を作り、一方に柄を差し込む穴を開ける。



図6 蟻掛

継手の一つで、相互の接合部を台形の凸凹型に加工し合体させる。



図7 火打ち

横架材同士を補強し水平面の変形を防ぐ斜材のこと。



図8 三級大工試験

切り妻小屋組の一部。屋根の形状の一つ。棟より軒桁に向かって2方向に傾斜をもつ屋根のこと。

#### 5. 制作工程

本制作は組み立て式軸組み模型であり、組立て後解体が可能なように、接着剤・金物を使用せず出来るだけ、実物を再現した模型になっている。ゆえに施工手順を誤ると模型が完成しない。上記の継ぎ手・仕口を用いて、以下の図8-11の手順で模型を組み立てた。



図8 基礎設置

ヒアシンスハウスの周りは独立基礎で内部は布基礎。この構造はものづくり大学名誉教授の太田邦夫先生が提案した。



図9 土台 柱 桁設置

平柄と蟻掛は管柱に用いる。片流れの屋根なので、通し柱になる。短手の桁はけらばの出で長くなる。



図10 梁 火打ち設置

火打ちは、土台・梁に入り火打ち土台・火打ち梁と大きさがそれぞれ異なる。



図11 束 母屋設置

束は1.5寸勾配になる寸法で作る。母屋はけらばの修正後の長さに合わせる。

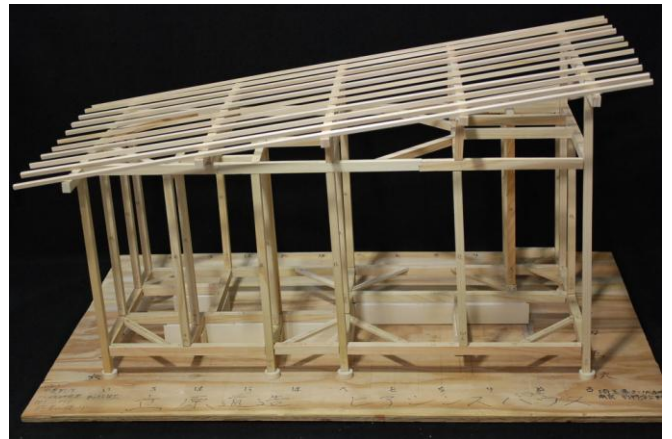


図12 ヒアシンスハウスの1/10の完成軸組模型

#### 6. まとめ

本大学は実物に触れることで学ぶ、他大学では学ぶことの出来ないことを行っている。今回の組立式軸組模型は、本大学の特徴を活かした制作となった。

図面からでは理解しにくい継手・仕口を組立式軸組模型で表現することで、実物に触れることが出来る。よって想像でしかなかったものが理解しやすくなり、組み立て式にすることにより住宅の施工過程についても学ぶことが可能な模型になった。

#### 【謝辞】

文化財保存計画協会研究員の津村泰範氏には、現地にてヒアシンスハウスの建設経緯についてのご説明に加え、施工当時の資料設計図をご提供頂きました。

また生川工務店の生川朋社長には図面について貴重なご指摘を頂きました。ここに記して深く感謝します。

#### 【参考資料】

- ・遠藤悠樹『夢の継承 ヒアシンス完成まで』ものづくり大学 2004年度卒業論文
- ・立原道造作品復刻 「HAUS・HYAZINTH」建築スケッチ2葉